

農薬ドローン「効率的」

県スマート農業センター初研修

ドローンの操作を体験する参加者ら＝海津市
海津町平原 県スマート農業推進センター



もできる」などと解説した。その後、参加者もドローンの操作を体験し、上空を自在に飛ぶ感覚を楽しんでいた。参加した県就農支援センター研修生の小島敏明さん(56)は「初めての操作で緊張したが、今学んでいるトマトのハウス栽培でも活用できるか考えてみたい」と話していた。

(小田香緒里)

先月オープンした海津市海津町平原の県スマート農業推進センターは21日、県内の農業者らを対象にしたドローン活用研修会を同センターで開いた。

同センターは、県がロボットなどの先端技術を活用したスマート農業の情報を発信しようと開設。研修会は今回が初めてで、今後さまざまなテーマで実施していくという。

研修会は午前と午後の2

回あり、県内の農業者や農林事務所の職員ら22人が参加した。初めにドローンスクールの運営などを手掛けるロボッツ(郡上市美並町)の石田宏樹社長が、ドローンの種類や航空法が定めるルールなどについて説明。続いて、JA全農岐阜の職員が自動操縦で農薬散布ができるドローンの操作をほ場で実演し、「ラジコンヘリよりも低空で飛行できるので農薬の飛散を抑えること